



『隠れた危険な自分』がわかる4タイプ別チェック

自分の強みが発揮できない「ディストレス」状態に陥るとその強みが裏目に出て時にはセクハラ、パワハラ、いじめに走ってしまう。そんな怖い可能性を診断するツールをご紹介します。

FFS理論は、米国の国防機関の依頼で、生産性を最大化する組織づくりのために研究し、提案しました。実際に世界の多くの企業や軍隊で、職務適職判定やチーム編成に応用されています。この理論は、人間の個性は単独または複数の構成因子が組み合わさってできているという考えに基づいています。どの因子が強いかによって、普段の傾向だけでなく、強いストレスにさらされた時に表れやすいマイナスの傾向がわかります。特に職場で周りに影響を与えやすい4因子を選びました。

まず、「凝縮性」因子です。診断表でAが最も強く出た人は、自分の価値観を強く持った、思い入れの強い人です。父親や教師など、権威に関わる原体験が、人生に強い影響を与えています。自分の信念に基づいて一定の方向性を固く守ろうとする能力は、この因子に関係します。このため、通常は指導力が高く、道徳や規範を重視する行動が目立ちます。企業では、出世してリーダー的な存在になる人が多いでしょう。

Bの「受容性」因子が高く出た人は、周囲の状況を無条件に受け入れる人です。「思いやりのある人」とも言えます。周囲が幸せであれば、自分も幸せに思う傾向があり、愛情に関わる原体験、特に母親との影響を受けています。他人を守り、育てようとする養育的な要素は、この因子に関係します。養育的であるという特性は、普段は周りに寛容で、人や環境に対して肯定的な行動として表れます。部下の世話や育成に長けた人が多いでしょう。

Cの「拡散性」因子が高い人は、今の状態を変えようとする「攻めの人」です。自分を拡張子、発展させようとする傾向が強く、活動的、創造的、積極的な行動が特徴です。移動遊牧民を特徴づける因子とされており、遺伝子に決定されている要素が強いものです。人の注目の対象になることを好み、自分をよく見せたいという気持ちが強いのが特徴。要は目立ちたがりと言う事です。「とにかく」「まあいいか」が口癖です。

Dの「保全性」因子が高く出た人は、現状を維持しようとする「守りの人」。現状維持のために、自分のエネルギーの損失が最も少なく済む方法を選択しようとする傾向が強いのが特徴です。農耕定住民を特徴づけており、遺伝的に決定される要素が強い因子です。日本人の役65%は、保全性因子のポイントが拡散性因子よりも高いことがわかっています。

協調性、順応性が高く、几帳面で、1つのことを始めると根気よく続けることが多いでしょう。人によく思われたいという気持ちが強いほか、安全性や安心感を重視し、無難で損をしそうにない選択肢を選びがちです。

<警戒区域解除に伴う自動車税の課税について>

各町村において区域の見直しが進められておりますが、警戒区域が解除され自動車置いてある場所が「居住制限区域」もしくは「避難解除準備区域」となった場合は、立ち入り制限がなくなるため、解除された月の翌月から減免の対象とはせず、3月までの月割分の自動車税を納めて頂くことになります。

※警戒区域が解除され、自動車を置いてある場所が期間困難区域となった場合は、引き続き立ち入り制限があるため、減免の対象となります。

※区域解除後2ヶ月以内に用途廃止等による永久抹消登録をした場合は、

「申告」により平成23年度以降の自動車税が課税されません。 福島県

(続きは来月号に)

フジテレビオンラインより

間もなく梅雨入りの季節です。日本で「つゆ」と呼ばれるようになった由来は、「露(つゆ)」から考えられますが、梅の実が熟し潰れる時期であることから、「潰ゆ(つゆ)」と関連付ける説があるようです。

